

本論文は中国の戸籍制度がなぜ導入され、中国の経済にどのような影響を与え、中国の政府は同制度をどのように改革しようとしているのを明らかにした。その概要は以下のとおりである。

まず、戸籍制度がなぜ生まれたかという点であるが、戸籍制度は世界から孤立させられながら重工業化を図ってゆくという政策から生まれた制度であり、農民を農村に固定化することが目的であった。農民は人民公社に属して農業に従事することが義務付けられ、農業で生み出された富は農産物価格の低位固定化によって重工業に移されていった。こうした措置によって、工業化は進んだものの、農村は経済発展から取り残され、計画経済の下で格差が発生することとなったのである。

1978年の中国の改革開放が始まって以来、農村では人民公社の解体と個人農家による土地の請負の急速な普及、都市では国有企業の改革、個人経営、合弁会社、外資の独資経営等多種所有制の並存へ進み、計画経済から社会主義市場経済への変革が急激に進んでいった。農民は低賃金労働の供給源として活用され、2億人ともいわれる農民工が沿岸部を中心とする工業地帯に吸収された。しかし、彼らは都市戸籍を持っていないゆえに、都市住民の受けられる育児、教育、住居、医療、年金という手厚い社会福祉から排除されただけではなく、就職、賃金、労働条件などの面でも差別を受けた。その格差がいかに大きいかは本文で記述したとおりである。現在、この格差は都市暴動を引き起こすほど拡大しているうえ、戸籍制度の存在がさらなる農民の労働移動の障害となっている。沿岸部ではすでに人手不足に陥っており、これら地域の経済発展に大きな影響を与えている。戸籍制度はすでに中国の安定と経済発展の桎梏となっているのである。

戸籍制度改革は中国の安定と経済発展の桎梏を取り除く重要な一歩となるはずである。しかし、その改革は容易ではないことは重慶市、深セン市、河南省などの地方における様々な改革の取り組みに明らかである。すなわち、土地制度改革と財政制度改革が進められない限り抜本的改革は困難であり、これらの改革もまた容易になしえるものではない。かかる意味で、戸籍改革は多くの時間を要するものと考えられるのであるが、重慶などの改革の試みは不十分なものではあるが、農村戸籍から都市戸籍への変更が不可能だった時代に比べれば、大きな前進であり、長い間戸籍制度のもとに存在し続けた二重社会の構造を根底から取り崩す重要な一歩となることは間違いない。また、政府の緩和措置によって、農村から中小都市への戸籍変更はかなりの程度まで自由になった。さらに、労働制度改革、社会福祉改革などによって都市戸籍に付着していた様々な特権が取り払われ、農民工が都市に移住しやすくなったことも事実である。現在、2013年三中全会で基本方針が提議された戸籍制度改革が今後どのように進むのか大いに期待される場所である。